

登場人物

時野

日世子

忍

源（右の門）

劍守（護衛）

神田（巫女）

鈴鹿（鈴ならし）

刃（左の門）

花嫁

O P E N I N G

ナイフとフォークが食べ物を切り裂く音。

食べ物を通してカッンと皿に当たって音を立てた。

横一列の長い食卓、真っ白なテーブルクロスの上には何種類もの料理。

人々は獣のように味わう事すらせずに口に詰め込んでいる。

そして、真ん中の少年が顔を上げた。

少年　だから予告したでしょう？

そう言って胸のナプキンを投げ捨てた。

人々の間から聞こえて来る。

人々　「きつと文字だ」

少年　誰かが言った。それは根<sup>ルート</sup>を示す文字。

人々　「きつとパズルだ」

少年　誰かが言った。それは根<sup>ルート</sup>を表わすパズル。

人々　「きつと地図だ」

少年　誰かが言った。それは根<sup>ルート</sup>を探す地図。

人々　「きつと扉だ」

少年　誰かが言った。それは根<sup>ルート</sup>へ通じる扉。

人々　「きつと動き出すロボットだ」

少年　誰かが言った。それは………。ジャガイモ、ニン

ジン、

人々　野菜の根。

少年　牛肉、魚、卵、

人々　動物の根、言葉の根、ウワサの根、親のスネ。

少年 いろんな根っこにかじりたくなって、

人々 息の根。

少年 足首を掴まれ、手首を掴まれ、僕は根をたちきる  
為に動き出したんです。

人々 それはたった一夜のうちに現れた。

テーブルクロスを四方を掴んで背中に抱える者。

テーブルを移動させる者。

口の汚れを拭って退場する者。

様々に席を立つ。

テーブルを片付けるもの達は工事現場を片付けるように見える。

立ち入り禁止のオレンジ色の光がひとつひとつ灯  
っていく。

その光をめがけて時野が走ってくるようだ。

時野 駅の改札を北口から出て真っ直ぐ。一つ目の交差

点を左に曲って、三つ目の信号をまた左。右手には女子  
短大の校舎それを右にぐるんと回った裏側に：あれ？

立ち止まり息を整えようとするがうまくいかな

い。

いつもより視界の良い風景が見えた。

ここではないどこかで日世子は自分の部屋の中。

日世子　声は体温を思い出させます。

時野　ぐるんと回った裏側に、いつもあったじゃない

か？何で無くなるんだよ？何処に行ったんだ？

日世子　足音は肉体の存在を知らせます。息づかいは甘い匂い：だから：

時野　すいません。誰か知りませんか？ここにあったんですよ、あいつの家が。ベージュ色の二階建て。

片づけをしている作業員がオレンジ色の光を指差した。

時野　：工事中？あの、誰か知りませんか？何処に行ったのか。

作業員は小首を傾げ、手を振り、知らない、と示す。

日世子　だから、私をここから出そうとしないで下さい。

時野　こっちにあいつの部屋があって、何やったってびくともしないドアがあって：大声張り上げてた。おい日世子、聞いてるか？って。お前いつまで休む

気？もう夏休みなんかとつくに終わってるよ。とりあえず中間テストの時間割おいていくからな。みんなに頼まれたから。一応ちゃんと届けたからな、ってけっこう覚えてるもんだな。

日世子 どうしても移動したいのならこの部屋ごと移動することを考えて下さい。

時野 日世子、何で今日の進路相談、来なかったんだよ。お前さすがにやばいって。日世子、あっ、あいつ鍵かけてやがる。

日世子 でもこれで、きつともう会えなくなる。もともとと会う気もなかったけど：

時野 俺よく考えたんだけど、これってもしかして登校拒否？何で？拒否する理由なんか無いだろ？みんなはきつと理由があるんだろうからそつとしとけって言うけど。

日世子 時野が一人だけ、最後までしっこかったから。

時野 お前、今日こそはドアこじ開けてでも入ってやるからな。何で高校やめたんだよ。どうすんの？これから。俺、もう大学決まっちゃったぞ。

日世子 いつも大声出して、きつと細い目をいっばいに見開いてたんだろうな。

時野 みんな心配して卒業してったよ。電話も出ないし。心配してくれる奴がいるうちがハナだよ。何か嫌にな

ったわけ？一回くらい何か答えろって。日世子：

：お前いい加減にしろ。一生その部屋の中だけで生活していく気か!?日世子！もう勝手にしろ。俺二度と来ないからな。

日世子　　すぐ怒るし、すぐ謝るし。

時野　　この間はちよつとキレました。ごめんなさい。ハガキなら読むかなつと思つて出しました。

日世子　　私が、時野のこと好きにでもなれば変わったかな。

時野　　大学よりバイトの方が楽しいです。最近、高校のあいつらとは時間が無いのであまり会いません。

日世子　　そしたら外に出られたかも？

時野　　就職活動、厳しーです。ムカツク面接官もいます。

日世子　　でも、出ない。私この部屋から絶対に出ない。

時野　　何とか就職できましたが、やっぱり残業が多い。でも大学の時よりあいつらとよく会います。

日世子　　時野がいたって私は何にも変わらないかったんだから。変わらずに、やっぱり息づかいは甘い匂い。

時野　　まだあの部屋の中ですか？そうだとしたらちよつと長すぎやしませんか？俺と交代する？

日世子　　でも、これでもう時野の気配も感じなくてすむ。時間がかかったけど完全に私の計画成功：あつ。

日世子、誰かに足を掴まれた。  
それは根っここのようにも見えた。

時野 俺も閉じこもってみようかな、なんてな。

日世子 ……何、これ？

時野 最近、高校のあいつらとよく会います。うれしいけどうらやましいこともある。

日世子 やだ：何なの？これ：何でこんなの、これ、これ：  
れは：

時野 何か疲れてるみたいです。元気出せるようにしたいから、

日世子 これが私が怯えていたものなの？

時野 ちよつと行ってきます。

日世子 これは私の足を掴む、根っこ？

時野、ふと我に返った。

時野 ちよつとの間にこれかよ。帰って来ようって思えたのに。向こう側の景色なんて見えやしなかったのにな。スカスカの骨組みの隙間から遠くまで見えてる。何処に行ったんだ？また明日も来ようか？明日会えなかったら次の日も、その次の日も……。嘘じゃない、本当に聞きたかったんだ。あいつの声が一番聞きたかつ

た。行列の最後にひとつひとつ灯っていく灯りを見て、  
やっぱりそう思ったんだ。

時野はオレンジ色の光に背を向けて歩き出した。

工事現場の作業員から短大の授業へ。

地面に耳をあてる者。

突っ立っている者。

みんなドカタのような格好。

源 右に50・04、そのまま下へ25・84、左に曲  
がって16・99……

モニターを見ながら地面を這いずり回る源。

他の三人はやる気なさそうに棒で地面を突つくだ  
け。

剣守 最悪

鈴鹿 何？この格好。

神田 仕方ないよ。

剣守 うわ。買い物のおばちゃん、こっち見た。

鈴鹿 見世物じゃないわよ。

神田 八つ当たりしないの。すいません。

剣守 大体、誰が言い出したんだっけ？この授業取る



うって。はっきりさせようよこの際。

鈴鹿 神田ちゃんでしょ。

神田 ごめんね。…え？

劍守・鈴鹿 何？

神田 私？

劍守鈴鹿 そうよ。

神田 違うわよ。鈴鹿でしょ？これだったら絶対「優」  
がもらえるって先輩に教えてもらったって言ってたじ  
やない。

鈴鹿 言ったかしら？

神田 え？言わなかったっけ？

劍守 どっちが言い出しっぺでもいいけど、私が一番か  
わいそうよ。うっかり口車に乗ってこんなモンペ着る  
はめになって。

鈴鹿 モンペじゃない。

神田 ねえこれ何て言うんだっけ？ねえねえ。

鈴鹿 でももともとの言い出しっぺは劍守が楽して何が  
何でも優の数を増やしたいって言ったから。

劍守 私か!?

鈴鹿 私、もともとそれなりに出来るし、神田なんか努  
力家でどの授業でもいい線いく。

劍守 いいわよ。じゃ仮に、仮によ、私が言い出しっぺ  
だったとして、それが何？さあ、それが何なの。

鈴鹿 　　でた。剣守得意の開き直り攻撃。

神田 　　これ何ていうズボンだっけ？

源 　　そのまま下がって84526・うーん、これは  
　　紆余曲折だねえ。そしてこの位置で少し停滞……。辛  
　　い、辛いねえ。だけどね……。ほら脱出した！素晴らし  
　　い。

剣守 　　集合。今は開き直るのやめるから集合。

神田 　　ごめん。素直に言っていない？

剣守・鈴鹿 　　何？

神田 　　あの先生怖い。

剣守 　　神田ちゃんよく言った。

鈴鹿 　　うん。たまに核心付くね。

源 　　鈴鹿君、神田君、剣守君。

三人 　　はい。

源 　　進んでる？

三人 　　はい。

源 　　神田君は誰の根を探してるんだった？

神田 　　私？えーとですね、あのね……。あはは。

鈴鹿 　　先生、今日は後期の授業の一回目だから何をする  
　　のか説明してもらわないと、私達こんな格好させられ  
　　て突っ立ってるだけなんです。

源 　　あ、そう、そうね、そうだったね。初めてだもん  
　　ね。えっと、僕の事見て大体分かんないかな？

神田　それはちよつと難しいですよ。

源　　だろうね。

劍守　さっぱり分かんない。

源　　だろうね。

鈴鹿　源先生、ちゃんとやり方教えていただけなくてし  
ようか。

源　　実は僕にもよく分からない。

全員　あつはっはー。

劍守　タイム。作戦変更。

神田　この短大大丈夫なの？

劍守　もうこの授業さぼろう。

鈴鹿　私達三人しか選択してないんだからさぼったらバ  
レバレ。

劍守　でも教えてる本人がよく分からないって言ってん  
のよ。そんな授業受けてどうすんの？

神田　劍守、声が大きいってば。

劍守　しょうがないでしょ、根が正直なのよ。隠してい  
られないの。学生課に抗議に行ってくる。

源　　僕はまだまだ「根学」一年生ですから。

三人　は？

源　　十年間根学に没頭しているこの僕でもこれからも  
っと研究していかないと、まだこの分野は不明な点  
が多いので。だからみんな根学一年生から二年生三年

生と進級していこうね。ありがとう、ありがとうね。  
がんばっていいこうね。がんばるぞ。

劍守 私帰る。

源 「優」が無くなっちゃうね。もったいないね。

劍守 戻ります。

鈴鹿・神田 結局そうなるのなら初めからおとなしくしてなさい。

劍守 分かった。この授業を選択したのが間違いなんじやなくて、この学科に入ったのが間違いだったんだわ。

鈴鹿 現代教養学科？

神田 結局何勉強しているのか分かんない学科よね。内容もバラバラだし。

鈴鹿 揃いも揃ってここしか受からなかったんだから仕方無い。

源 根学は実は古い歴史を持っているんだけど、けれども、実際に目立たないマイナーな学問ですから誰も知りません。みなさん、私服で授業を受けるのはやめましょうね。警察に職務質問されますよ。「根学の勉強です」なんて言ったら怪しいと思われるでしょうっぴかれます。工事現場の人々と見せかけて、密かに根を探しましょう。はい、よーいドン。

劍守 ちょっとちよっと、肝心な事説明してないじゃない。

鈴鹿 神田、分かってないのに何してるの？

神田 だって「根」探すんでしょ。花とかあれば。

源 はい、神田君ほぼ正解！但し花じゃありません。

探す根は人の根です。

三人 人の根？

源 ぐるぐるどーん。はい注目。いいですか、これは  
むかしし根学を生み出した駒川草次郎さんの著書で  
す。

劍守 聞いた事ある？

鈴鹿・神田 全然。

源 ここに書いてあります。「人の根は生きている」  
と示されております。はい。

劍守・神田 どういう意味？

鈴鹿 私に聞くな。

源 ぐるぐるどーん。はい、これは音を聞き分ける機  
械です。よくテレビのオカルト番組で使われます。

人の声なのか、車の騒音なのか、動物の鳴き声なのか、  
このモニターに波長が映し出されます。下の方に出る  
のが人の声の波長です。

神田 人の声が人の根ってこと。

劍守・鈴鹿 あんたバカじゃない？

源 はい、神田君かなり正解！

三人 はあ!?

源　　しー：：静かに、静かに、ゆっくりゆっくり耳  
を地面に、しー：：何か聞こえますか？

劍守　　なーにも聞こえないー：：

源　　しーしーしー人の根は見えない地下を張り巡る  
と書いてあります。そしてその根は人の声とよく似て  
いるとも書いてあります。もしかしたらその声そのも  
のが地下を駆け巡っているのかもしれない。

神田　　地面の下から？

劍守　　人の声が聞こえて来る？

鈴鹿　　まるで地獄ね。

源　　自分の耳と機械でその根を探っていくんですね。  
音のする方へ体を何センチずらしたかメモリながら。  
すると紙の上には一本の線が出来上がって行きますよ  
ね？今探している根がどこから来てどこへ行くのか。  
何か聞こえますか？

神田　　水の音がする。

劍守　　水道管の音？

鈴鹿　　セミが鳴いてるみたいよ。ジージー。

劍守　　電気の音？

神田　　どれが人の声か分からない。

源　　モニターを見ながら、集中、集中。誰の根をキャ  
ッチするか分かりませんからね。僕のものかも知れな  
いし。でも人の根というのはエネルギーをたくさん出

している人のをキャッチすることが多いとか書いてあります。

剣守 ！！

鈴鹿 どうしたの？

剣守 人っぽい。何か人っぽい音。

神田 ウソおん。

源 はい集中集中。よく聞いて下さいね。もしかし

たら音の破片を集めたら言葉がちゃんと聞こえて来るかも知れませんか。何か聞こえますか？

鈴鹿 ジージージー。

神田 サラサラサラサラア。

剣守 カンカンあーカンカンあー

源 まあでも初心者には難しいので聞こえるわけ無い  
と思いますけど……。

鈴鹿 ジーイーイーイー。

神田 サラサララララアー。

剣守 あー、あっ……

三人の学生の声と交じり合って男の荒い息遣いが聞こえて来る。

時野の声 はあはあはあ……。

剣守 ……男？

神田 え？

剣守 男の人の声？

鈴鹿 冗談でしょ？

時野の声 はあはあはあはあ。

必死になって聞く三人、男の息遣いが近づいて来るようだ。

源 この人の根とは何なのか。科学的には解明されて  
おりませんが、一説には……

源の声はどんどん遠ざかって次第に男の息遣いと  
言葉が入り込んでくる。

時野の声 おかしいな。もうバス停が見えてきたってい  
い頃なのに……。

剣守 きやあー！

源・鈴鹿・神田 何、え、何、何！

剣守 何か聞こえちゃった。

源・鈴鹿・神田 ウソ。

剣守 ホントホント、マジで。ほら、ちよつと鳥肌立っ  
ちやつた。

源 そんな、今さつき初めて僕が教えてあげたくらい



で聞こえるわけないでしょ。

剣守　　しーしっ。静かにして。あら？聞こえたのもし

かして私だけ？うわ、優秀。

鈴鹿　　私、もう一回やってみる。

神田　　私、私も聞きたい。

源　　そんな簡単に聞こえるなんて、根学バカにすんなよ。

三人　　しーっ

全員しやがみこんで寝そべる。

源　　いいですか、人の根とはとつても微妙らしいんです。もしかしたら人の心のメカニズムの大発見につながるかも……。

鈴鹿　　あっ。もしかしてこの低い音？

剣守　　うん、たぶん。

神田　　誰の息遣い？

源　　え？みんな聞こえるの？ウソついちゃいけないよ

三人はずるずると根を探して移動する。

剣守　　ちよつと静かにして。こっちから闘こえない？

鈴鹿　　神田、メモって。じゃまじゃま。(と源を押し

けて)

神田 はい。右に32・45・

源 ちよっと!?ほんとに?真剣?十年間研究し続けている僕だって本当は一回も聞いた事無いのに。

剣守 ごめんなさい。私達、先生の十年間を十分に飛び越えちやつたみたい。

源 ええ!飛び越えられちやつた!?

三人 うるさい。

闇。

夏の虫の声、リーリーリーリー。

段々と荒い息遣いが聞こえ出す  
逃げ続け、走る男。

時野 おかしいな。もうバス停が見えてきたっていい頃なのに。あのキャンプ場を抜け出してからかなり走ってるのに。はあー、山道で迷ったらヤバイな。一本道だと思ったのにな。朝になるまでどこかでじっとしてる方がいいかもな。

りーりーりーりーりーりー

時野 気味悪い。いかにも出てきそうなカンジ。能<sup>の</sup>勢<sup>せ</sup>っ

てかなり田舎だってセミナーの人が言ってたっけ？タヌキが出ますよって。まさかクマとか……出ないよな？

ザアツと風が木々を揺らす。

時野　　!!!まさかな。……やっぱり戻ろうかな。いやダメダメダメ。俺にはああいうのは合わなかったんだ。取りあえず夜が明けたら道も分かるだろうし、バスに乗って駅までいっ……

犬達の声　　デンシヤダイ

時野　　あれ？

犬達の声　　シンカンセンダイオサイフオカネカード

時野　　そうだった。貴重品、預けたまんまだ。ああ、もういいや。仕方ないし。戻るわけにいかない。それより誰かに電話して迎えに来てもらおう……

犬達の声　　ケータイ

時野　　あ……解約したんだっけ？それに……

犬達の声　　ダレカッテ？

時野　　誰もいないんだよな。

犬達の声　　ハヤクカエーロ　　オウチヘカエロ　　デン

デン　　デン　　グリガエシデ（バイバイバイ）

時野　　アパート引き払ってここに来た……

犬達の声　　ドウシヨウヤツパリ戻ロウカナ？

時野　　やっぱり戻ろうかな。でも…

犬達の声　　アンナトコロニ　　アト一週間モイタラ

時野　　頭、おかしくなっちゃうよ。

犬達の声・時野　　あー、どうしよう。一番いい方法考え  
なきや。まずカード止めるだろ。あ！免許証。それに  
仕事探さなきや。部屋、借りる程貯金ナイシ。タイシ  
ヨクキンモセミナーガツシユクニホトンドハラツテル  
シ

　　どンドン犬達の声の方が勝ってきて最後は、時野  
が思わず聞いてしまう。

時野　　あれ？

犬達の声　　アレ？

時野　　何だ。俺の声か。自分の声が別の人の声みたい  
聞こえた。

　　もう一度辺りを確認。

　　けれどそこは闇。

時野　　…真っ暗だ。何でこんな事になったんだろう…

犬達の声　　許容量コエソウダ

時野 ハラ減ってきた：

犬達の声 モドツタラ？

時野 うーん。

犬達の声 イツモミタイニ ナンニモカンガエズニ

トビダシタカラ

時野 せめて貴重品は確保しておくんだったな。

犬達の声 サイシユウシヨクツテムズカシイナ

時野 あと一週間我慢したら会社もアパートもついてく

るって話だったけど。でも：

犬達の声 デモナア デモナア アレハイヤ コ

レモイヤデキナイワカラナイ

時野 どうでもいいや。もう何にもしたくねーよ。考え

んのも面倒くさい。

犬達の声 イチバンイイホウホウ：

時野 バカか俺。いくらなんでも。

犬達の声 ココカラオチタライタイカナ？ ナーンテネ

時野 こっち側、ほんとに真っ暗だ。

犬達の声 ヤメトケツテ ドウセマタ トチュウデ

ニゲダスタケ

時野 一瞬だけ怖いの我慢したら。

犬達の声 ビビッテルクライナラヤメトケツテ

時野 だってどうせ誰もいないし。会社無いし、お金無

いし、こんな歌あったよな。(学校無いし、家庭も無

いしゝ♪)

時野、口ずさみながらそろえて靴を脱ぐ。

犬 I ヤメトケツテ戻ロウヨ

犬 2 クツハソロエテヌグノデス

犬 3 ヤメトケツテ朝マデマトウヨ

犬 4 キャンプジョウカバステイカ

時野 どっちも考えたくないよ。

犬達の声 ヤマノソトガワガケツプチ マツクラクラ

クラヤミノナカアトハ一步ヲフミダスダケ

犬達の声・時野 落ちたら終わり。何にも無い。

時野 うわああああ

けれど怖くて逃げ出した。

時野 やっぱり無理だ。どうしよう。どうも出来ないよ。

ひよいと時野の左の靴を。花嫁“が啜えて隠れる。

犬達の声 アレ？

時野 靴が無い。左の靴だけ。何で？

犬達の声 ヒソヒソクスクスヒソヒソクスクス

時野　　へへへ。そっかさっき俺の左側半分だけ、あのマックラヤミの中に落ちて行ったんだ。中途半端だな、何やっても。どれか一個くらいやってのけたいのに。どれなら出来る？どれも無理か……。はあふ…疲れた…このまま、もう目が覚めなくてもいいや…：

時野はゆっくり目を閉じた。

鈴鹿　　あっ、とぎれた。

劍守　　見失ったんじゃない？

神田　　地面の下だから見えてないのに、見失うって言葉使うのはへんな感じよね。

劍守　　こっちの方にそれっぽい音があるんだけど。

鈴鹿　　結構おもしろい、これ。古そうにみえて新しいよね。

神田　　ああ！！

劍守鈴鹿　　何？

神田　　キャッチしたかもしれない。こっちの方。

劍守　　源先生、こっちです…。

源、うつ伏せになって寝ている。

高らかなイビキ。

鈴鹿 ほっとけば？役に立ちそうに無いし。私達だけでも探そうじゃない。

神田 いくいく。続き、続き探そうよ。

剣守 これ借りて行きます。

神田 ここからもうちよつと左よ。

剣守 左に 1 3 ・ 3 2 ・

鈴鹿 そのまままっ直ぐ 6 2 ・ 0 0 ∴ ∴ 。

三人、道具を抱えてうつ伏せで這いずり回る。  
男が一人声をかけた。

時野 すいません。ちよつとお聞きしたいんですけど。

剣守 ごめんなさい。急いでるもんで。

時野 あの、ちよつと待って。ここの工事現場の人ですよね？

鈴鹿 だから嫌なのよ。この格好。

時野 前にも何度か聞いたんですけど、みんな知らないって。

神田 すいません。現場の者では：

時野 でももう一回だけ。あの、現場監督は？

鈴鹿 あ、ああ、あそこで寝ちゃってるんです。あの人に聞いて下さい。

時野 すいません。お聞きしたいんですけど、以前ここ



に住んでいた家族が何処に行ったかご存知ですか？

源 ううーん。ぐるぐるどくん。

時野 それは地名ですか？もう少し詳しく。

鈴鹿 そういえば知ってた？

剣守 何が？右に3・9：

鈴鹿 この工事現場の家のこと。

神田 あ、知ってる知ってる。

鈴鹿 近所の奥様方に、そりやもう目の敵よ。

剣守 ちよつと、二人とも早く。

鈴鹿 「最近おかしな事件が多いですけど、お宅のお嬢さん大丈夫かしら？」ってこうよ。

神田 「高校生の時から閉じこもっていらっしやるんでしょう？嫌だわ、怖いわ。うちの僕ちゃんにも注意するように言っておりますの〜」なんてねえ。

鈴鹿 ちよつと偏見はいつてるよね。「何か事件を起こしてからじゃ遅いですわ。近所が一番迷惑しますのよ」とか言って駄目押し。

剣守 でもね。引越す時の事知ってる？

鈴鹿・神田 存じませんわ。

剣守 噂ではね、その娘さんの部屋丸ごと持っていったって話よ。まあ噂ですけど。

神田 あら、どういうこと？

剣守 どうしても部屋から出ようとしなからよ。そこ

までやると何かあるんじゃないのって疑ってしまいま  
すでしょ？

鈴鹿　でも、「引っ越してもらってからは安心して夜道  
を歩けますわ」とか言ってたらしいわよ。

三人　怖いわねえ。

時野　それだよ。それから何処に引っ越していったか知  
りませんか？

鈴鹿　そこまでは、ちよつと。

神田　まあ、噂だしねえ。

剣守　ねえ：あつ、やだ、ちよつと続き続き。

鈴鹿　もお、あんた達といるとすぐ脱線しちゃうんだか  
ら。

神田　でも、鈴鹿が初めに：

鈴鹿　ほーら、行くわよ。右に：：ねえ、あの人どつか  
で会った事無い？

神田　そう？気のせいじゃない？

鈴鹿　うーん、顔じゃなくて：

剣守　右に、右にね、真っ直ぐ。まーっすぐ。

とは言ったものの、三人なんだか時野が気になる。

時野　何だよ、手掛かりなんて一つも無いじゃないか。

どうやって探せって言うんだよ！

思わず地面を蹴ったが、源に当たってしまった。

源 あ、痛！

時野 あ、すみません。ごめんなさい、現場監督。

源 か、監督？

時野の声をしっかり聞いて三人奇声をあげる。

劍守 先生、この人、この人。

鈴鹿 先生、声、声。

神田 先生、地面、地面。

源 え？え？え？

劍守 まだ寝ぼけてるの？

鈴鹿・神川、気付けの一発。

神田 先生、起きて！

ぱっちり入る。

源 おう。

劍守 とにかく声なんですよ。聞いてます？

源 (クラクラ)

鈴鹿 神田、気付けの。発。

神田 先生、起きて！

ばっちり入る。

源 おう。

剣守 まだ覚めないの？

鈴鹿 神田：

時野 ちよつと待て。君達は鬼か？

剣守 もう一回言って下さい

時野 君達は鬼か？

神田 絶対そうだわ。

鈴鹿 だから言ったでしよ？

時野 何のこと？俺はこの家の行き先が知りたくて。

三人 そう、その声。

源 ちよつと、先生にもちゃんと教えてくれる？

神田 先生おめでとう。

剣守 これで根学もマイナーからメジャーになるわ。

鈴鹿 でも、見つけたのは私達だけど。

三人 お礼は？

源 え!?あゝあ、ありがとう。

源、訳も分からず頭を下げた。

時野 変わった工事現場の人達だな。

ピピピピと時計のアラームの音。

剣守 誰か携帯。

神田 鈴鹿じゃないの？

鈴鹿 私こんな音じゃない。

源 授業中は携帯の電源は切りなさいって言ってるのに……。あ、そうだ。これ先生です。課外授業だから携帯のアラームかけておいたんだった。はい、今日の授業はここまでです。

剣守 えー帰っちゃうの？

神田 もつたいないよ。延長しようよ。

源 そうは言っても何時まで延長するか届け出さないよ。この学校こまかいから。

時野 あの。アラーム止めた方がいいですよ。うるさいですし。

鈴鹿 とことんやりましょ、先生。

剣守 私、バイト休むって電話しよ。

時野 あの、アラーム……。

源 バイトまで休んで、これまたいきなり熱心だね。うるさいですよ、アラーム。

剣守 だって本人と会えたのよ。おもしろいじゃない。

鈴鹿 うん。楽しい事最優先。

神田 おなか減らない？ちよつと早いけど夕食と夜食の買い出しに行こ。いってきまーす。

時野 アラーム……。

源 そこまで。言うなら先生、がんばっちゃおっかな。

時野 すいません。何でもいいから先にアラーム止めてもらえます？

源 あ、ごめんなさい。

源が止めるのと同時に

部屋の中の忍が目覚まし時計のアラームを消した

忍 ……5時30分一時間目って何だったっけ。その前に……

時間を確認して画面の前に座った。

忍 朝日新聞、読売、毎日、産経……全然安全じゃないな。……また外に出れないや。何とかならないのかな。日世子 何とかならないのかな……。

日世子もまた部屋で画面の前に座っている。

日世子　　きっと見つけ出す方法があるはず……。これ、  
もしかしたら……。。

忍　　一時間目は数学か。

日世子と忍、同じ通信授業を受け続ける。

そことはまた別の場所で

時野の足にしがみつく源。

源　　困るんですよ。帰らないで下さいってば。もうす

ぐ彼女達戻ってきますから。

時野　　だって怪しそうなんだもん。そんな学問聞いた事  
ないですから。

源　　しよがないよ、マイナーだから。でもこれから

は違いますよ、きっと。現にあなたの根を探り当てた  
わけですから。本でも出そうかな。

時野　　誰かに聞いたんでしょ？

源　　あなたの根から。

時野　　あのですねえ……。。

三人　　ただいまー。

源　　おかえりなさい。

剣守　　先生、私達買い物してる間色々想像しちゃって。

神田　　これって人探しとか犯人探しとかに使えるんじゃない？  
って。

鈴鹿　　そうだったら私達、根学探検隊としてがんばります。

源　　早まらない、急がない、焦らない。そこまでいくには日々の研究を積まなきゃいけません。確個たる証明を突き出してこそ日常生活に普及するってもんですから。そうするとですね、ここはひとつまあ何と言いますか、そのー……。

鈴鹿　　実験台になって。

源　　早いね、鈴鹿君。

剣守　　源先生。ペラペラ話すのはいいけどがんばらないとき。

神田　　まあ今の状態じゃあ完璧に不可だね。

鈴鹿　　特訓よ、特訓。せっかく実験台もいるんだから。

時野　　あの、勝手に話を……

剣守　　はい、しゃがんで。

神田　　耳をぴったり付けてね。

鈴鹿　　ダメ。腰が入ってない。

時野　　俺は……

源　　この体制でどう腰を入れるわけ？

時野　　ちよっと質問。ここでは俺の意志は反映されないのね？

源　　すみません。お名前聞いてませんでしたよね。

時野　　あ、時野です。



鈴鹿 時野ちゃんさあ、頭使わないと人生こけるよ？

時野 ……。

神田 実験台になってもらって根学が確実だって証明されたらさ、

剣守 この家の人の行き先だって分かるかもね。

鈴鹿 そういうことをくるくる頭回転させなつて。分かる？

時野 じゃ何ですか、分かりましたよ。あなた方の言うように根があつたとしましようよ、ね？

鈴鹿 シヤレよ、シヤレだわ。

源 サンプルとしてはまずまず。

時野 誰がサンプルですか!?だから人の根があつて、地面の下にはびこつてるつて言いますけどね、

源 うん。

時野 人の数だけ人の根があつたらこの地面の下は人の根で込み合ってる事になるじゃないですか。じゃあラッシュアワーの時なんて地下でもラッシュアワーって事ですか。

源 いい発想してるね。

時野 ここで俺とあんた方が出会ったら、地下でも俺の根とあんた方の根が出会つてるつて事ですか。

源 あ、なるほどねえ。

時野 そんな事だったらまるで地下にもうひとつ世界が

あるみたいじゃないですか。

源 世界ねえ……いいねその言葉。パクッていい？

剣守 ちよっと付き合うだけじゃない。損じゃないって。

時野 ソン……？

鈴鹿 はい、座って座って。やるわよー。源先生、邪心があるから聞けないんじゃない？

神田 ユニコーンと一緒にかもね。やっぱり乙女じゃないとね。

鈴鹿・剣守 え？私処女じゃないわよ。

源 恥じらいが、恥じらいが欲しい。

鈴鹿 ほら、特訓特訓。

神田 がんばれ源。

剣守 不可だぞー（と、口々に）

学生に特訓を強いられる源。

「根」に必死な四人。

時野は学生達をぼんやりと眺めて。

時野 ソンしてる……か。

その時まったく別の場所で

どうやら通信授業が終わったようだ。

日世子・忍 「質問時間は30分。次の授業は午後7時から開始します」

日世子 何これ？＝はじめまして＝何なの？＝はじめまして＝……。

忍 ……。

日世子 ＝僕は特に質問はありません。そちらもなければ終了しましょうか？＝どういう事だろう。

忍 ……。

日世子 ＝返事をしてもらえませんか？終了していいですか？……＝

忍 今日初めてこの通信授業を受けました。

日世子 ……。

忍 だからシステムがよく分かりません。

日世子 ＝これは一時間目の授業の後に生徒同士で互いに質問したり教え合ったりする時間で、センターが勝手に組み合わせるんです＝

忍 ＝そうですか＝

日世子 ＝数学は苦手ですか？僕はこの授業は理解しました。何か質問はありますか？＝

忍 ……。＝いいえ＝

日世子 ＝じゃあ違う質問をします“え？＝授業の質問は終了しました。あなたはどうしてこの授業を受けたのですか？＝

忍 ……。

日世子 「僕は統計を取りたいだけなんです。どんな人がこの通信授業を受けているのか。ただの気まぐれか、予習復習の為か、夜間学校の代わりか、それとも」

忍 「言わなくてはいけませんか？ ……。と、いうことは、言いたくない事なのか。」

日世子 「ということは、言いたくない事なのか。」

忍 「私はただ知りたい事があっただけです。」

日世子 「数学の何が知りたかったんですか？ どうして通信なんですか？」

忍 「もういいです。結局分からなかったから。」

日世子 「何が分からなかったんですか？」

忍 「終了して下さい。話したくないんです。」

日世子 「僕と？」

忍 「誰とも。」

日世子 ……

忍 ……。それが、

忍・日世子 この通信授業を受けた理由ですか。

忍・日世子 どうもありがとうございます。本当はもっと詳しく聞いてどのパターンに当てはまるかまで分類分けしたいけど、話してくれそうにありませんね。もし気分を損ねてしまったとしたらすみません。ただ

あなたに限らずこの質問の時間に出会った人、みんなに聞いてる事で、アンケートみたいなものだと思ってもらえれば……。 (忍の声が重なって、最後は忍の言葉になる)

日世子 授業の後にこんなのがあるなんて。止めとけばよかった。……あっ!! 気のせい?

ふと足元を見た。

コンコンとドアがノックされて扉の隙間からおぼんにのった夕食が差し出され扉はパタンと静かに閉じた。

日世子 ニンジン、ジャガイモ、牛肉、卵焼き、キャベツ。シーチキン。

花嫁の声 おいしそう。

日世子 どれも食べられない。

花嫁の声 全部食べちゃいたい。

日世子 だからどれも食べられないってば。リンゴ。よかった、果物があって。

花嫁の声 栄養かたよっちゃうのに。

日世子 地面に落ちたのなら大丈夫。命は奪ってないもの。

花嫁の声 お外に出たいよう。

日世子、はっと自分の足首を掴んだ。

日世子　あ、やっぱり伸びてる。

忍　実際に誰とも話したくないっていう人でも画面を

通してならたくさんお話してくれた人もいるんです。

花嫁の声　お話くらいいいじゃない。死ぬわけじゃないんだから。

日世子　あっ、また伸びた。

忍　だって言葉だけじゃ人の体をキズ付ける事は無い

し、キズ付けられる事も無い：でしょ？

花嫁の声　そうそう。血が出る事は無いしね。

日世子　何に反応してるの？

忍　返事が無いのは拒否してるって事ですか？

花嫁の声　何年ぶり？誰かと話するのは。

日世子　：：：これに反応してるの：：：？せっかく長い間  
ドアを閉めていたのに。私がこれに答えてしまったか  
ら？

と、日世子、パソコンに触れた。

花嫁の声　おなががすいた。もっとお話したいよう。お  
外、お外へ行こう。

日世子　もし私が今まで通り誰の声も聞かず、誰の目にも留まらなかつたら。

花嫁の声　動脈と静脈が栄養の通り道。足首からのぼつて行こう。

日世子　じゃあ結局一緒じゃない。どっちにしたって逃げられない。だから。

花嫁の声　ダカラ？

日世子　伸びるなら好きなだけ伸びればいい。絶対に見つけ出すから。

花嫁の声　見つけ出してどうするの？

日世子　∴拒否をしているわけではありません。授業の質問に戻っていいですか？

忍　∴別にいいですけど。

日世子　式が分からないんです。私はろくに勉強もしていないので、ちゃんと勉強すれば分かるかなと思ってこの授業を受けました。

忍　何の式ですか？何を求めたいんですか？それが分かれば僕のアンケートにも答えてくれますか？

日世子　ルート。私のルート。

忍　は？

日世子　それを求める説明も式も何も載ってなかった。忍　すいません。質問の意味が分からない。

日世子　9の平方根が3とマイナス3だって表わせるの

よ。9の数字の中には9.1111  
ってずっと続く宇宙があるじ  
やない。その宇宙のルートを探れるなら私のルートだ  
って見つけ出せるような気がして。

忍 何の話？数学の授業の話だよね？

日世子 そんな気がしただけ。ルートを探すのは数学し  
かやってなかったから。でもきつと的外れ。

忍 何だ、冗談か。

日世子 でもね、求められそうなの。

忍 え？

日世子 伸びてるの。反応してるの。あなたと話をし  
ると。長い間誰とも会わなかったし、話さなかった。  
人の声は人の体温を感じるから。

忍 へえ、それがまた何で今こうやって話してるわけ？

日世子 私の立てこもり作戦は成功したように見えただ  
ど、あの時：誰も話しかける人がいなくなった時から、  
方向を変えて体の内側に向かって伸び始めたから。

忍 内側に向かって伸びたらどうなるの？

日世子 ……

忍 その「私のルート」って何？

日世子 私も知りたい。だからこうやって話をして伸ば  
してるの。どんどん伸びて顔を出したらつかまえてや  
るんだから。大丈夫、文字じゃ血は出ないんでしょ？  
迷惑はかけないけど、ちよつとあなたのこと利用して



るかもしれない。

忍　じゃあ、交換条件。僕のアンケートにちゃんと答えてもらうから。でも、難しいな。どうやって統計とろうかな？今までにないパターンだから。

日世子　何の統計？

忍　画面の前にいる奴等が危険か危険じゃないか。

日世子　キケン。

忍　夕刊ではどの新聞も8割が危険なことで埋まっていた。そういう人がいなくなってくれないと、僕は安心して外に出られない。

日世子　：私だけ？

忍　え？

日世子　誰にも聞けなかったけど、あなたにはルートはないの？

忍　僕に？

日世子　足元、足元を見て。

忍　足：？

忍、ふと足元を見た。

地面の下で時野が息をきらせ走っている。

それを地面の上で追っていく源と学生達。

日世子も自分の足元を見たその時。

地面からひらひらと手をふる。

花嫁の声　人の体温：もう駄目。じっとしてられない！  
ちよつと行ってきまゝす。

日世子、小さく悲鳴を上げた。

時野　何だ、今の？

四人　!?

源　聞こえた？

三人　やった！キヤツチ！

時野　人の声？違うな、もっと低い、いや高いのか？

クマとか幽霊とか、やめてくれよ。

源　また聞こえた？ね、聞こえたよね？どうしよう、

時野くんやったよ。これはこれですな。

鈴鹿　先生、ここからが勝負ですよ

源　凄いぞ、やったやったよ。とうとう聞いちやった。

ありがとうね。思えば僕が根学に没頭して：

三人　集中！

時野　何だ、あれ：：。

闇の中でうごめく光。

花嫁　やだって言ったらやなの。こんなに早く回ってく

るなんて思わなかった。

剣守　ねえ鈴鹿、何か聞こえる？

鈴鹿　でも鈴鳴らした。もうしようがない。

花嫁　私、いち抜けた。

鈴鹿　何だか混線してるみたいにいるんなのが聞こえて来るのよ。ねえ、神田は何か聞こえる？

神田　花嫁、わがままはだめでしょ。順番なんですから。

花嫁　チッ。巫女ってカンジわるーい。

源　み、巫女？花嫁とか何だ、これ？

鈴鹿　先生、聞こえてます？

源　ええつと…今のが始まりの合図だと思ってるのか？

鈴鹿　うん。この前の花嫁行列、冬の終わりにあった。

今、もう限界の時期。

源　左の門。

刃　はあーい。

源　やる気なさそうだね。

刃　やる気が出る方がおかしい。

剣守　ええく。みんな聞こえるの？

神田　仕方ない事ですから。誰だって気は進みませんが、でもいつかは順番は回ってくるんだから。

源　列を作ろう。右の門、左の門、巫女、鈴ならし、

花嫁 ……あれ？

劍守 ……逃げ足早すぎ…って聞こえたみたい。

花嫁 護衛、あんたヤな奴ね。私が逃げ出すの分かって  
てスタンバってたでしょ？

劍守 だって、…護衛だから。

花嫁 分かった。もう逃げないから放してよ。

神田 あんまり信用してはいけませんよ。この花嫁った  
ら口からでまかせばかり言うんだから。

花嫁 こら、巫女、あんたねえ。

刃 別にいいんじゃない？

時野以外 え！

刃 逃げようが、いちぬけしようが。

花嫁 左の、あんたいい事言うわね。じゃ！

刃 そのかわり前の花嫁の事もその前の花嫁の事も、  
忘れたら許さないから。

花嫁 ……ごめんなさい。ちゃんとするから。ちよつと  
言ってみたかっただけじゃない。左の、陰険。

源 月が落ちるまであとどのくらい？

鈴鹿 山二つ分越えるくらい。

神田 行きましようか。東へ。朝日の方へ。

鈴ならし、大きく合図を送った。

劍守 待つて。誰かいる。

時野 お、俺の事かな？何だよ、こんな夜中に変なこ  
とばかり話してる奴等だな……

劍守 その陰。

時野 うるせーな。あの、ほつといてもらえますか？

時野以外 みくたくなく

時野 え？

鈴鹿 私、一回言ってみたかった、このセリフ。

神田 私も私も。髪の毛伸ばしておくんだったわ。

鈴鹿 口に唾える。怖さ倍增。

劍守 どう？怖いだろ？

時野 全然。

源 さあ、こんなのはほつておいて行こうか。

時野 ああいうバカそうな奴等ってどこにいったってい  
るもんだな。遊んでないで早く帰れよ。あ？俺の靴

花嫁が片方だけはいている。

時野 ちよっと待てよ。それ俺の靴だぞ。お前が取って  
行ったのか？

時野、花嫁につかみ掛かろうとするが、

劍守 何かご用でしょうか。

時野 あの：いや、その靴、俺のだから。

花嫁 違うわ。私のよ。

時野 何でだよ。さっきここで急にバツて無くなったから、俺「半分半分人間」になって頭ぐるぐるになって諦めモードで、何言ってるか分かんないよ。

劍守 危害を加える気が無いのなら手を後ろにそのまま下がって。

時野 え？

劍守 動かずに。動いたらあなた死にますよ。

鈴鹿 護衛、少しぴりぴりし過ぎる。

時野 死にたくなーい。あれ？死にたいんだっけ？  
でもやだー。あれ？でもさつきは：

神田 かわいそうに。少し心が壊れてるんでしよう。

時野 お前等に言われたくないぞ。

花嫁 お前、これが欲しいの？

時野 ていうか俺のだから。

花嫁 だって落ちてたから。気に入ったんだもん。

鈴鹿 花嫁、何でもかんでもすぐ捨てる癖ある。

神田 さっさと返しなさい。こんな変なの相手にしちゃ  
いけません。

時野 変なのって、そっちの方がよっぽどおかしいだろ。  
いくら地元民だからって、真夜中だろ？今：え？本当

だ。おかしいぞ。こんなところで、おたくら、何して  
んの？え？俺……

一瞬ゾワツとする時野。

犬達ジツと時野を見つめている。

時野　もしかして、いっちゃったのかな、俺……（と自  
分の体を確かめる）本当は一步を踏み出して真っ暗闇  
の中なのか？ここは……

犬達、息を潜めた。

花嫁　ねえ、どうしてみんな今まで気が付か無かったん  
だろ？

劍守　何が？

花嫁　花嫁になるのは別に私達の中からじゃなくてもい  
いじゃない。

神田　何が言いたいんですか？

花嫁　代わりにあいつに花嫁になってもらうの。

源　無理だね。力で負ける。

花嫁　きっと大丈夫。だって、  
刃　少し左側の香りがする奴だな。

花嫁　そう。靴の儀式をしていたもの。

鈴鹿 それは理解した。でもどうやって、身代わり、頼むか？

花嫁 任せてよ。ちよつとだけ待ってて。

劍守 じゃあ私も一緒に。

花嫁 大丈夫。逃げないって。今まで左の門に入って行った花嫁達の事、ちゃんと覚えてるから。

花嫁、時野の方へ近寄る。

劍守 いいの、任せて？そんなにうまくいくと思う？

刃 最後のあがきなんだから。誰だって花嫁になったらあがきたくなると思うから。

源 そうだな。

神田 少し休みましょう。月が落ちるまでに私達の方の体力が無くなったら花嫁も何もあつたものじゃありませんから。

鈴鹿 少し休憩。

鈴ならし、大きく鈴を振った。

時野 これが世に言うお迎えってやつか。

花嫁 こっちの道をずっと行くとね、キャンプ場。こっちの道を行くと、バス停。今ちようど真ん中くらい



かな。

時野 え？

花嫁 私ね。西の方から来たの。東へ向かって。

時野 あの。

花嫁 お迎えじゃないよ。私は花嫁さんなの。知らな

い？花嫁行列。

時野 何がなんだか、ついていけないよ。どっちなん

だ？死んでるんだか生きてるんだか。どうせ俺、どっ  
ちもなんだよ。だって「半分半分人間」だから。

花嫁 そんな難しい事はいいの。

時野 そうかきつと俺の妄想か幻想だな。あんなセミナ  
ーに行っただからとうとうバカになったんだ。幻想なら  
消えちまえ。別に何にも見たかねえよ。

花嫁 幻想じゃないよ。ほら。あんたも私もいるじやな  
い。

時野 そうじゃないなら何で俺の所に来るの？

花嫁 それ。ものは相談なんだけど、これも何かの縁だ  
と思っでさ。いい所で出会えてよかったよ。

時野 はあ：

花嫁 私と花嫁代わってくれない？

時野 無理。俺、男だから。見りや分かるだろ。

花嫁 大丈夫、関係ないから。花嫁は明日を連れてくる  
だけだから。

時野 明日？

花嫁 だってあんたどうせいらんいでしょ？

時野 いるとかいらんとか、何でお迎えなのか幻想なのか花嫁なのか分かんないお前に決められなきゃいけないの？

花嫁 だって靴揃えてたじゃない。

時野 それは。

花嫁 何だよ？

時野 それは……。ちよっと話だけでも聞いてみない？  
だよ。

花嫁 え？

時野のいた町の音、パソコンの青白い光の前で画面の文字を目で追う。

残りの犬達 チョット話ダケデモ聞イテミナイ？

時野 最初はただのイタズラメールかと思ったんだ。

残りの犬達 アナタ損シテイマセンカ？

時野 思わず指が動いた。まだ気付いていないあなたは  
こちらへ。

残りの犬達 <http://www.perfect.co.jp> 実行。

パソコンは唸りを上げてフル回転した。

源　　はい。パーフェクトライフのページへようこそ!!  
あなたは1億5412人目の訪問者です。それではここで経  
験者の生の声を聞いてみましょう。

鈴鹿　　とにかく感謝しているわ。

剣守　　今までが嘘みたい。

神田　　新しい自分が発見できたの。

源　　画面の前の皆さん、とても画期的な人間改革がた  
った二週間で行われるなんていったらさぞ驚かれる事  
でしょうね。実はこの先輩達も初めは…。

鈴鹿　　そりゃあ、驚いたわ。

剣守　　だって信じられる？

神田　　インチキだって旦那に叱られたわ。

源　　それが嘘じゃないんです。このパーフェクトライ  
フが自信を持ってお勧めする二週間のセミナー合宿。  
題しましてライフレックス<sup>20001</sup>“

神田　　初めは本当に半信半疑だったの。だってそういう  
のって何だか怪しいじゃない？

源　　そうなんです。以前のセミナーは身体に非常に負  
担をかけた人間改革が多かったのです。高い金額を払  
って山にこもり武者修業。そして警察なみの誘導尋問  
のような内面改革。

剣守　　それは確かに負担だわ。

源 そう、それは人間破壊であって、人間改革ではありません。ところがライフレックス 2000 は違います。

鈴鹿 一体どんな所が違うのかしら？

源 なんとNASAで開発されたこの人間改革ライフ  
レックス 2000 その威力は皆さんが試してみれば  
分かります。

鈴鹿 まあ、NASAなら安心だわ。

源 例えば、彼。たった今二週間のセミナー合宿を終  
えて帰ってきたばかり。

刃 こんにちは

源 お名前は？

刃 宏です。

源 じゃあ、ボブ、今はどんな気分？

刃 生まれ変わったみたい。以前はとにかく人がうら  
やましかった。でもそんなの言えなくて。

源 ここで使用前、使用后でのボブを見比べてみよう。  
さあ、みんな叫んでみて。

鈴鹿・劍守・神田 使用前！

源 例えば、学校でのワンシーン。

神田 ねえボブ、テスト前で悪いんだけど古典のノート  
貸してくれない？

刃 もちろんさ。

劍守 ねえボブ、月末で苦しいの、ちょっとお金貸して。

刃 もちろんさ。

鈴鹿 ねえボブ、コーヒー買ってきて。

刃 もちろんさ。

鈴鹿・劍守・神田 私達、仲良し四人組み。

刃 僕、ボブ、17才。得意技、安請け合い。何だかボブ、ちよつと損してる。

源 分かるよ、その気持。誰にでもいい顔しちゃう。

J a p a n e s e の悪い癖。そのくせ内側は不安と嫉妬と妬みのオンパレード。人間改革しなきゃね。でもその前に変わりたいと思うなら今の現状全てを捨てる  
勇氣 が必要です。

刃 え？

源 周りのその人達、本当にあなたの得になる？あなた  
たの事を本当に思ってくれていますか？

刃 結構深いマジ話だっけるけど

源 心の底から信用出来ます？

刃 え：？

源 分かんないような関係はすぐに絶ち切ってしま  
ましよう。一人で自分を見詰め直さなければ改革出来  
ません。

刃 なるほどお。よし、やってみるか。

源 まず自然の中で体をヒーリング。体を休めて回復力  
を養います。そして、同じ悩みを持つ人達とのディスカ

ッション。最後にライフレックス 2000 の秘密を少々。すると……

神田　　ねえボブ。

刃　　NO！

剣守　　ねえボブ。

刃　　NO！

鈴鹿　　ねえボブ。

刃　　NO！

源　　これが使用後。おめでとう、ボブ。今はとっても

輝いているよ。さあ皆さん。これでパーフェクトライ

フがお勧めするライフレックス 2000 の魅力は十分

伝わりましたね？はあーい！

鈴鹿　　今なら何と秋の大収穫特別プレゼントが付いてくる。

神田　　自分に自信の無い方、環境を変えたい方、裸一貫からやり直したい方。

剣守　　参加者随時受け付け。ただし今までの人間関係を花嫁　　全て精算してからご参加下さい。

源　　不安に思ってるあなた、大丈夫。このセミナー合宿を終了すると、もうあなたは完全人間。これからいくらだって素晴らしい関係を作れます。それどころか、みんなあなたについてくる。

パソコンの画面はそこで静止する。

花嫁 バカじゃないの。

時野 バカバカしいだろ。

花嫁 でも、参加したんだ。楽しかった？

時野 だったら、こんなところにいないよ。何がNAS  
Aだよ、何が新しい人間改革だよ、ウソばっか。あんなの悪質な自己啓発セミナーだ。完全にはまる前に逃げ出してやっぱりよかったよ。

花嫁 逃げてきたんだ。

時野 特別プレゼントが一部上場の企業とその寮だと？  
このご時世にそんなおいしい話があるかよ。バカか、金返せ、詐欺集団！

花嫁 ちゃんと分かってるんじゃない。なのに何で参加したの？

時野 そうなんだよ。考えたら簡単な事なのに、今更後悔してもしょうがないけど。

花嫁 それで、朝になったらバスに乗ってもとの所に帰る気？

時野 それも考えたけど無理だな。みんなバイバイしてきちやっつたしな、会社も全部。だから：

花嫁 靴そろえた。

時野 こんなことならあいつらに止められた時にやめと

けばよかったかな：

花嫁 あいつらって？

時野 あんたのまわりにもいるだろ？ああいうの。

と、残りの犬達を指差した。

時野 でもすぐに連絡取るのやめちゃって。高校の時の

：もう別にいいけど。

花嫁 止める人がいたの？

時野 ああ：

花嫁 そうか：だからか。

時野 何だよ？

花嫁 だから、今自分のまわりにいる人を精算しろって

ことなのか。だって、止めるじゃない、普通は。

時 あ：

花嫁 そんなことも分からないでバイバイしたの？

時野 だって、あの時は：

花嫁 あんた本物の馬鹿だね。かわいそう。

時野 だろ？何にも無くなったんだから：

花嫁 あんたのことじゃないよ。

時野 え？

花嫁 その人達：もし探しに来たら帰る？

時野 来るかよ。この場所だって知らないし。知ってた



って：俺はもう会う気ない。

花嫁 本当に？

時彦 損してる。

花嫁 え？

時野 思っちゃったんだよな、あいつらに。昔はそんなこと思わなかったのに。あいつらが喜んだら俺も嬉しくて。でも今は何で俺だけうまくいかない？って。

そんなこと思いながら一緒にいたって疲れるだけだ。

花嫁 別に、昔から思ってたんじゃない？

時彦 は？

花嫁 そういう状況にたまたまならなかっただけじゃない。  
い。

時野 そういう状況？

花嫁 私だって花嫁の順番が回って来るまでは、花嫁になる子がかわいそうで、何とかしてあげたいって本気で思ってたけど。どうにもならないから。でもね、自分が花嫁になったら、思っちゃうもの、損してるって。何で私なの？って。初めはそう思ってた。

時野 俺は別にそんなふうに思ってるわけじゃ……

花嫁 だから今考えると、花嫁になる子の為にかわいそうって思ってた気持ちにはウソなのかなって。私、本当は自分だけ生き延びたいのかなって。自分がうまくいかないと思っちゃうよね。私だけじゃないよね？でも

ね、思い出したの。

時野 やめるよ。そんなセミナーの奴等と似たような事言うな。

花嫁 へ？

時野 俺は違うよ。そんな事思っで無い。

劍守・鈴鹿・神田 ジブンヨリモット サミシイヒト

ガイルモットヒサンナヒトガイル

時野 そんな事一度も考えた事無い。

劍守・鈴鹿・神田 アナタ ソウオモツテ イキノ

ビテキマシタネ？

時野 人にも下も無いだろ。

劍守・鈴鹿・神田 イイヒトノフリハツカレマスカ？

時野 フリじゃなくて、本当に日世子が……

劍守・鈴鹿・神田 ヒヨコ？ソレガアナタノエモノダッ

タンデスカ？

時野 俺は日世子が心配で、いつも声かけて。

劍守・鈴鹿・神田 イイコトシテルジブンガスキデス

カ？

時野 でも日世子は、もしかしたらその方が幸せなんだろうか。

劍守・鈴鹿・神田 ジャアオレノハウガシアワセデハナ

インダロウカ

時野 じゃあ俺は何であんなにハガキを出したんだろう

か。

劍守・鈴鹿・神田　ドウシテナンデスカ？

時野　近況報告で、日記みたいなもんで。

劍守・鈴鹿・神田　ジャアドウシテコノセミナーノコト

ヲカカナカツタンデスカ？

時野　それは、何だか日世子より……

花嫁　ねえ、聞いてる？

時野　ええ!? あ……

花嫁　お願い。どこにも帰る気がしなくて誰にも会う気が無いなら、やっぱり花嫁はあんたしかいないって。

時野　ちよつと待てよ。何でそうなるんだ。

花嫁　だってあんた。

時野　どうせ俺は死ぬつもりだったから何してもいいと思ってるんだろ？

花嫁　あんた、話の分かる人ね。

時野　ドレスか白無垢かどっちか知らないけど、お前想像してみろ。俺の花嫁衣裳姿。おぞましいだろ？

花嫁　あんた、話分かってない。

時野　違うの？

花嫁　花嫁行列だよ。見た事ないの？青白く燃える火。

時野　え？人魂？

花嫁　違う、行列の灯り。山の中にひとつ、ひとつ一列に灯っていく光。

時野 あれ？それって冬に見えるやつで：何て言った  
っけ？

花嫁 本当は冬だけじゃないんだよ。だって私達、いつ  
も持ち続けてるんだから。

時野 え？何を？

花嫁 骨。青白く燃える花嫁の骨。

時野 何、言ってるの？

ぐうと誰かの腹がなった。

花嫁 ずっと昔に、どうやってこの音を押さえたら良い  
のか、みんなで考えたのね。

ぐうとまた大きく誰かの腹がなった。

花嫁 この音が大きくなればなるほど、明日がどんどん  
遠ざかっていくからって、一番初めに耳に痣のある子  
が花嫁になるって言ったの。私は、その時左の門に  
なってその花嫁の骨を：

時野 それ何かの昔話？本当に見えたらどうする、その  
灯り：えーっと、何だったっけ？名前が：

花嫁 初めは逃げ出そうとした。でもやっぱり思ったの。  
出来る事なら他の誰かを花嫁にすればいいって。だっ

て…

時野 名前が、ほら、あれだよ、あれ…

花嫁 私ね、思い出したのよ。

時野 思い出した。

花嫁 行列の最後に、ひとつ、ひとつ燃え上がる骨を見て、いつも思ってたこと。これは何なんだろうって考えていたけどいつの間にか忘れていて。でもやっと思い出せたの。

時野 ひとつ、ひとつ、燃え上がる…狐火。

花嫁 私、泣いていたのよ。満たされていくのに、泣いていた。花嫁になるのはやっぱり怖い。何で私なのかって。でも泣きながらあの子達の骨をかじるよりましかなつて。

時野 お前、狐か？

突然、全く違う「根」が動き出した。

刃 骨か…。

ふと鈴鹿が顔を上げた

鈴鹿 何か言った？

剣守 だから右に10・02のあたりで聞こえた。

鈴鹿　そうじゃなくて……。

源　どうです時野君、間違い無いでしょ？相違ない

でしょ？先生にも聞こえたでしょ？嬉しいでしょ？

時野　……はい。まあ確かに……。でも何で分かるんですか？

源　それっは根学のくしんぴい♪

時野　バカにしてるんですか？それじゃ「根学」のくせに根拠が無いじゃないですか。

源　いえいえ。これから根学の時代ですよ。時野君の根を解明していけば、神秘も現実になるだろうね。

時野　でもそれって俺のプライバシーの侵害になりませんか？俺、あの夜の事は誰にも話さないでおこうって思ってたのに。

源　根学の進歩の為です。

時野　じゃあ慰謝料として、この家の人探して下さいよ。

源　あっ、さっき根拠が無いって文句言ったクセに。

時野　モノは試しにですよ。

鈴鹿　だからそうじゃなくて、よく聞いてよ。

剣守　聞いているわよ。

源　どうしたんだい？僕の教え子達。

神田　違います。先生が私達の教え子なんです。

剣守　鈴鹿が全然違う事言うの。

鈴鹿 何ですよ？ここがさつきキャッチした所。そこから左に10・02あたり。

劍守 右よ。

鈴鹿 左だつてば。

劍守 ちよつとちよつと、根学に関しては私の方がつかみは早かつたんだから。絶対、右。

源 はい。ケンカだめ。先生が代表して探してみるから。

鈴鹿 劍守、早とちり多いんだから。左でしょうが。

(と、源は無視)

時野 先生、完全になめられてますね。

源 すっかり忘れてたよ。半年前まで女子高校生だったんだから勝目無いよね。

神田 あ、あのね。

劍守 神田、黙つて。

鈴鹿 ずれた事言わないでよ。余計に話がややこしくなる。

神田 ふたまた。

鈴鹿 失礼ね。その件はちゃんと精算したわよ。

神田 え、あの。

劍守 あく、あの時は大変だったわ。もうやめてよ。鈴鹿なら三又もやりかねないんだから。

鈴鹿 あれはさすがに体がもたなかった。

源・時野　　いやくん、えっちい。

鈴鹿　　吞んで、食って、やって、寝る。私は一番自然体を受け入れてるのよ。

剣守　　あんたは根っからのすけべいなだけじゃない。

神田　　根がふたつ。

花嫁以外の全員　　は？

神田　　ふたつに分かれてるみたいなの。右と左。どっちに行く？

時野　　分かれるなんてことあるんですか？僕が来た道はひとつですよ。

源　　どうだろうね。研究のしがいがあるよ。両方聞いてみますか。先に……

剣守　　右。

鈴鹿　　左。

神田　　もうジャンケンで決めたら？はい、ジャンケン。

剣守・鈴鹿　　ハッ。

鈴鹿　　やった。左に行くわよ。（学生と源はしやがみこんだ）

源　　右と左の違いを書き留めていくね。時野　　あの、左に行ったら何て聞こえたの？

鈴鹿　　骨か……

時野　　骨？

鈴鹿　　それから……



刃　いい話を聞いちゃったな。そうか骨か。骨なら絶  
対その場所にあるし使えそう。

時野　え？そんなこと誰が言ったっけ？続きは？

鈴鹿　花嫁、もう限界。もう待てない。

時野　そうだよ。先生、やっぱりあってます。

源　えーつと、左は時野君の来た道の通りと：続き  
はあってますか？

神田　行きましたようか。明日がもうすぐやって来ます。

剣守　花嫁、婚儀の儀式の用意をするね。

時野　ええ、あってます。それから花嫁が言ったんです  
よ。待って、花嫁代理登場“って。

花嫁　待って。

三人　待って。待って。待って。

源　だめだよ時野君、先に答えを言ったら。やる気出  
してくれるのはうれしいけど。

時野　すいません、つい……。

花嫁　待って。私だっておなかですいてるのよ。

花嫁以外の全員　え？

時野　違うよ。花嫁はそんな事言っただけだよ。

鈴鹿　だって聞こえたんだもん。

時野　もう一回よく聞いてみて。

花嫁　何が明日？何が儀式？バカみたい。私が本当に  
花嫁だったら反対にこうしてやる。

源 時野君、あってますか？

時野 いいえ。

劍守・神田・鈴鹿 でも聞こえるの。

花嫁 初めに首。

劍守・神田・鈴鹿 痛い。

花嫁 それから腕。

劍守・神田・鈴鹿 痛い。

花嫁 背中、足。

劍守・神田・鈴鹿 痛い。

花嫁 最後にハラワタ。

時野 全然違う。右、右の根を聞いてみて下さい。左は

間違ってますよ。

鈴鹿 でも待って。まだ聞こえる。

刃 豪快だね。今のは殺人だよ。

花嫁 違うわ。正当防衛よ。悪いのはあっちじゃない。

5 対 I よ。

刃 そうか。卑怯だね。ならいいや。悪い奴は僕が成  
敗しなきゃいけないから。

花嫁 あんた左の門じゃないでしょ？

刃 あんただって。

花嫁 だって全員食べちゃったもん。

時野 え？俺は？俺の根はどこに行ったの？

神田 ちよっとこれ、違う人みたい。

剣守 だから右だって言ったのに。

花嫁 私はね、たまたま通りかかったただけなんだけど横やり入れちゃった。

刃 僕も外へ出る抜け道をやっと思っつけ出せたから。

フラツと歩いてたらこの集団にあつて。

鈴鹿 ねえ神田、これ本当にふたつに分かれてた？

みんな え？

鈴鹿 他の根と交差してるんじゃない？

神田 何、それ？

源 根と根が接触したって事か？

時野 でも、俺はそんな人達とは出会いませんでした。

剣守 じゃあ、どうなってるの？日にちとか時間がおかしくなるじゃない。

花嫁 あんたどっから来たの？

刃 四角い所。あんたは？

花嫁 私も四角い所。うわー、ひさびさ。やっぱり外つて素敵。

刃 初めてだ。

花嫁 えっ？

刃 初めて外の世界に来たんだ。足音、車の音、自転車、地下鉄、キャンプ場、山道、道路。でもここには空は無いんだね。

源 時野君。

時野 はい。

源 君の言った事、もしかしたら本当にあるかもしれないね。

時野 はい？

源 世界だよ。地面の下の世界。

刃 行かなきゃ。

花嫁 当てがあるの？

刃 危険な奴等がいる所。せつかく外に来れたんだからやりたい事やらなきゅ。

花嫁 行ってどうするの？

刃 言ったら？成敗しなきゃいけないって。

花嫁 ねえねえ、それってやっぱりバツサリ？

刃 もちろん。

花嫁 手伝ってあげようか？

刃 え？

花嫁 外、初めてなんでしょ？案内してあげる。あーでも私もひさびさだから。でもあんたよりはましよ。

刃 あのね。

花嫁 悪い奴がいたら私が噛みついてあげる。私、おなかがいっぱいになりやそれで楽しいの。ストレス溜まってんの、私。正直言うと道連れが欲しいのね。長い間ずっと誰とも話して無かったんだから。

刃 あのね、これは遊びじゃ無いんだよ。

花嫁 え？

刃 僕は本気なんだから。本気で危険なものを排除したいって思ってるんだ。これは正義なんだよ。

花嫁 むずかしー。まあ、分かった分かった。

刃 だから悪い奴以外に噛み付いちやだめだよ。

花嫁 はいはい。

刃 そんな事したらすぐに僕が成敗するから

花嫁 はいはい。

刃 でも…

花嫁 ん？

刃 本当はこっちから誘おうかと思ってた。

花嫁 何で？

刃 あの食いっぷりはたいしたもんだから。戦力になる

花嫁 私の至福の時よ。

刃 誓いを立てようよ。

花嫁 へ？

刃 正義の為に、我は悪しき者を滅ぼさん。ほら、ほら早く。

花嫁 はいよ。正義の為に噛みつきまーす。

刃 まず、そこに散乱している骨、もらっていい？

花嫁 どうぞ。もう食べられないから私はいらない。何すんの？

刃 何で作ろうかなって考えてたんだけど思い付かな

くて。でもさつき骨の話聞いて、使えるなって。

花嫁 何に？

刃 国旗を作るんだ。そのうち分かるよ。あんだ名前  
は？

花嫁 何だっさいいけど、一応誓いの言葉言ったから花  
嫁でいいか。あんだは？

刃 心を取って

花嫁 は？

刃 ヤイバ。行こうか、まず初めに……。

鈴鹿 走り出したみたい。

神田 右に5・8、左に4・2、まっすぐ11・05

剣守 速いよ、ついていけない。

花嫁 初めに何処行くの？

刃 駅の改札を出てすぐ近くのマンションの301号  
室にガンマニアがいるんだ。

花嫁 そいつ危険なわけ？

源 右に2・5。

刃 犯罪犯すのも時間の問題。

花嫁 ほう、早めに対処ってことか。

刃 そう、僕はこの国からキケンを全て排除する。

花嫁 私の好きにやっちゃっていい？

刃 いいよ。噛みつけ、花嫁。

花嫁 イエーイ。

源 何だか嫌な音がしたね、また右に6・1・

刃 それから次にローソンの角曲がって右隣の家。

花嫁 そいつは何？

刃 ロリコンの奴はみんな排除しなきゃ。統計取って

おいてよかった。花嫁、使い物にならないように引き

ち切れ。

鈴鹿 まっすぐ8・8・何これ？

花嫁 気分爽快！ねえ、ねえ、これって良い事？良い

事？

刃 僕の考えには良いか悪いかしかないの。悪を根絶  
やしにするのは絶対良い事。

源 下がって16・2・ちよつと時野くんの根から反  
れたね。キヤツチ失敗かな？

時野 じゃあ根学全然駄目じゃないですか！

花嫁 あ、こいつ動いた。ガブ。止めの一発。

刃 花嫁最高。

時野 本当はさっきまでちよつと期待してたのに。

鈴鹿 ああ、日世子さん探し？

時野 何で知って：

源 右に7・0・

劍守 時野ちゃんの根が言ってたよ。

神田 それがあなたのエモノだったんですか？ってや  
っ。

源 そのまま右：ちよつと待てよ：根があるというこ  
とは：。

時野 ちよつと、あんたの生徒が俺のプライバシー侵害  
してるよ。

源 君達、今の状況が分かっていますか？左に6・6・

源以外 へ？

源 今キャッチしている根は「誰か」の根なんだって  
こと。右に4・2。

花嫁 次は？

刃 殺人者のくせに公平に裁かれなかった奴等。

花嫁 どうやって調べたの？

刃 情報はいくらだって手に入るから。

花嫁 でも一度は裁かれてるんでしょ？

刃 ぬるいんだよ。悪は悪で変わる事なんてないんだ  
から。どうしても国が裁かないなら：

源 よく聞いて、7・5・

刃 僕が裁いてやる。

花嫁 どうやって？

刃 だから国旗。僕の国旗にしちまえばいいの。

源 実在している誰かの根なんだよ。6・6・

花嫁 じゃあ、私絶対に死刑執行のお役人にして。

刃 優秀だもんね。

鈴鹿 でも、こんな事件聞いた事ないけど。4・2・



花嫁 こいつら皆食っちゃっていい？

剣守 もしかして今ひそかに捜査中かもよ。14・0

刃 息の根に噛みつけよ。

花嫁 楽しそう。

神田 じゃあ、この根を突き止めたら5・3・

剣守 私達が犯人逮捕しちやったりなんかしたりして

源 それいいね。よしそれで行こう3・8・

鈴鹿 先生：

源 今ここに二人組みの暴走を止める根学部隊を発足

します。

鈴鹿 先生、途切れしました。

源 え？

みんな脱力。

源・学生 はああ、疲れたあ。

その時、時野の口の前でごぼっと地面が盛り上がった。

時野 あの：ちよつと：

剣守 ちよつと休憩させてよ。私達ほぼ30分間根学やり

っぱなしじゃない？

時野 いや、お疲れの所悪いんですけど：

めり、めりつと地面が割れる。

時野 ちよつと、ちよつと見て下さい。あれ！！

時野が指を差した方向とは全く違う場所。

画面の前の日世子と忍。

日世子 もう何処まで伸びているのか私にも分からな  
い。捕まえ損ねたわ。

忍 君と話していて良かったことが一つある。

日世子 何？

忍 想像力。

日世子 想像じゃないわ。本当に手をひらひら振ってい  
たのよ。

忍 本当は外に出たい。

日世子 出たくない。

忍 僕の事だよ。怖くてさ。どうして他の人達は武装

せずに平気で外を歩けるのか、どうして武装している  
奴等を野放しにできるのか。言葉で傷つけられること  
なんて僕にとってそれほど重要じゃないんだ。肉体が  
無くなってしまうえばその言葉を言うこともできなくな

るから。

日世子　だからずっとそこにいるの？

忍　ここにいて役に立たない統計とって、情報をみるくらいしかできない。だから余計に腹が立つんだ。でも、想像だよ。

日世子　え？

忍　考えた事もなかった。きつとずっとこの部屋で過ごすんだろうって思ってたから。でも、何度も何度もシミュレーションしていけば、外で動き回る僕を想像すればいつかは外に出られるかもしれないうって思えてきたんだ。君がルートを伸ばしたように。

日世子　私は自分で伸ばしたんじゃないわ。誰かと、あなたと話したから。勝手に伸びて：私の、私：

忍　何で？別に伸ばしたっていいんじゃないの？自分分が外へ出た時のシミュレーションでしょ？

日世子　私から伸びてる？私がいるから？

忍　ちよつと待って。質問時間終了一分前だ。話してて面白かった。ありがとう。また偶然に質問時間で会えるといいね。

日世子　もうこの授業受けないわ。

忍　最後に名前教えて欲しいんだけど

日世子　もう会わないからいいんじゃない？

忍　ここではいつも聞いているから。

日世子　　：日世子、日の当たらない世界の子って書くの  
忍　　僕は心の刃って書いて忍。17才。

日世子はもうキーボードから手を放した。

日世子　　17：私がドアを閉めた時と同じ。「私」は成長  
しなくてルートのほうが成長しただけ？

忍　　5秒前のカウントが出た。

日世子　　5

忍　　また、

日世子　　4

忍　　どこかで、

日世子　　3

忍　　会えると、

日世子　　2

忍　　いいね。

日世子　　1

カウンターの合図と共に地面の下から花嫁と刃が登  
場。

花嫁　　花嫁！

刃　　刃！

花嫁・刃　ただ今参上！

全員息をのんだ。

刃　誰かが言っていたっけ？深淵を覗き込む時は注意

しろって。だってほら、向こうもこちらを覗き込んでるんだから。

花嫁　私の楽しみ邪魔しちゃ嫌よ。

刃　正義の前に立ちはだかる者は皆、悪とみなします。

刃、近くにあった根学に使う棒を拾い上げ源を切った。

学生達の悲鳴、口々に源を呼ぶ。

刃　ガラクタも僕の為に真剣に変化する。花嫁、行くぞ

花嫁　次のエモノはなあに？

刃　統計によると、要注意人物は風通しの悪い部屋で創られるらしい。

花嫁　それ分かる気がするね。

花嫁、刃は軽やかに走りだした。

時野 お前ら、ちよつと待て。

二人の後を追おうとする時野だが、

時野 携帯持ってるだろ？

鈴鹿・剣守 きゃあ、きゃあ…

時野 落ち着けよ。早く携帯、早く救急車と警察に電話。

神田 私するわ。

時野 …大丈夫か？

神田 大丈夫じゃないけど、電話しなきゃ。ちよつと。

どこ行くの、逃げる気？

時野 違うよ。追いかけるんだ。

神田 何考えてるのよ？先生みたいになるわよ。

時野 日世子がな。

神田 え？

時野 風通しの悪い所に絶対にいるから。

時野は刃と花嫁の後を追いかけた。

刃と花嫁にはなかなか追いつけそうにない。

花嫁 ねえ、私思うんだけど。

刃 右斜め前方に容疑者発見。

花嫁・刃 成敗！

刃 で、何の話？

花嫁 出会う人で私の道のりの良し悪しは決まっちゃうのよね。

刃 どういうこと？

花嫁 だから、本当だったら私なんかは真っ先に刃に成敗されるはずなわけ。

救急車のドップラー効果に一瞬振り向いた時野、けれど気にせず走り続ける。

時野 電話したのかな…。

刃 食いつぷりがいいのはそのせい？

花嫁 だって誰かの息づかたって甘いんだもん。でもここんところカスカスなものばかりしか食べてなかったから余計に力が入るの。味わえる時に味わっておかなきゃ。

刃 カスカス？

花嫁 桃とかリンゴとか。果物は根を切らないから。大好きなお肉もお魚もジャガイモも息づかいかも駄目なの。目標の赤い屋根の家到着。いっただつきまーす。

花嫁・刃 成敗。

刃 相当な肉好きのくせに菜食主義って変だよ？

花嫁 だってここいっ少し前まで生きてたんだな“って

思う食べ物食べちゃったら、一番食べたい息づかいが  
どうしても食べたくなるんだもん。でも、食わずに生  
きていくのが普通らしいのよ。

刃 当たり前だろ。

花嫁 だからがんばってみただけど。

刃 でも、ジャガイモは野菜だからいいんじゃない  
の？

花嫁 ジャガイモ食べる時どうするよ？根っこ切らな  
きゃテーブルの上に乗らないでしょ。

救急車のドップラー効果。

時野 また：？また誰かが：日世子!?あっちの方から  
聞こえて来る。

花嫁 でも刃といると正々堂々と噛みつけるから最高。

刃 花嫁は言ってみれば国家の犬だね。

花嫁 嫌な言い方。次は？

刃 連続で抹殺していきます。はい、

救急車のドップラー効果の輪唱が響く。  
人ごみを掻き分けて確認する時野。

花嫁 成敗。



刃 成敗。

花嫁 成敗。

時野 またかよ。どっちに行きやいいんだ？あっちか？  
でもこっちか？

再び走り出した。

花嫁 悪い子はいねえかく。

刃 悪い子はいねえかく。これなんだったつけ？

花嫁 ナマハゲ。

刃 悪い子は、ここにいたく。

救急車のドップラー効果の輪唱が響く。

神田 もしもし、だから何度も言ってるじゃないです

か！

時野 はあ、はあ、どっちに行きやいいか振り回されて  
る場合じゃないってのに。

刃 成敗。

花嫁 それってちょっと暴れんぼう將軍思い出しちゃう  
わ。

刃・花嫁 成敗、成敗、成敗！

神田 嘘じゃありません。本当にズバっと…

花嫁 頂きました。ごちそうさんです。

時野 引っ越したなんてするなよ。俺ってタイミング悪い。

花嫁・刃 皆さんコンニチハ。危険、要注意、容疑者撲滅キャンペーン実施中なのでご協力ください。

剣守 もう嫌。帰る。早く、早くなんとかして。

刃 加害者、被害者が発生するまえにクリーンしましょ。

時野 今度はあっちからか？

鈴鹿 血が、血、止まらない。神田早く！

花嫁 げふ。お腹ぱんちくりん。

神田 とにかく早く：は？も一回よく見ろって、何言ってるのよ！あんた救命隊員のくせに：

刃 撲滅した地域には安全の印を創っておきますので、どうぞ皆さんヨロシク。

鈴鹿 誰か、血が、ほら、血が：え？

刃 それは僕が正義の名のもとに征服した印です。

時野 あれ？何で？

剣守 何で？

鈴鹿 血は：どこいったの？

時野 何で誰も救急車に乗り込まないんだ？

源 ガバツと上半身を起こした。

源 びっくりしたなく、殺されたかと：

三人　　きやあくく！

生徒走って逃げる。逃げながら口々に、「ゾンビ」「でた、でた」「変態」「生き返ったく」。

源　　ちよつと、みんな喜んで。先生無事だよ

誰も聞いていない。学生たちは必死で逃げる。

鈴鹿　　地獄よ。やっぱり地獄だわ。

劍守　　もう嫌、なんでこんなことになるの？

鈴鹿　　誰のせいよ。

神田　　もう少し離れようよ。そしたら安心じゃない？

鈴鹿　　ねえ、待って。どれだけ離れても私達どこに立っ

てる？

神田　　どこって…

学生達、足元を見た。

劍守　　高層ビルにでも逃げ込む？

神田　　ビルだって地面の上でしょ？

劍守　　安心して。日本は島国よ。

鈴鹿　　だから何よ。余計に悪いじゃない。渡米でもする

気？

遠くでまた救急車のドツプラー効果の輪唱が聞こえている。

剣守　もしかして根学ってやっちゃいけないものかも

ね。

鈴鹿　変なこと言わないで。もう、どうするよ？

神田　根っこってさあ、普通はどうやって処理するんだっけ？

鈴鹿　植物なら普通：

学生たち顔を見合わせて再び走り出した。  
走り疲れた花嫁と刃。

花嫁　さすがに疲れてきたわ。

刃　切っても切っても終わらないな。後から後から伸びてくるみたいに要注意人物って腐るほどいるから。

花嫁　その統計の取り方の基準は何なの？行動に出たら？それとも考えるだけでも要注意？

刃　未然に防ごうと思うなら考えるだけでも駄目。シミュレーションは予告のようなものだから。

花嫁　それって独断と偏見じゃない？

刃 そうだよ。僕の国を創るんだから僕が安心できる  
ようにならないと。少し休む？ちようどこの地域は終  
了したし。印も創らなきや。

花嫁 その印って何？

刃 国旗。どこだって自分の国の国旗を掲げるだろ？

花嫁 どうやって創るのよ？

刃 だからこれ。

ごそつと骨の欠片を取り出した。

花嫁 骨

刃 骨を裁ち切る事はその言葉も声も奪う事。二度と  
悪い考えを持たないように。

花嫁 ホネノカケラ

刃 それで国旗を創るって良い考えだろ？

刃と花嫁座り込んで作業を始めた。

花嫁 ホネ。ねー：

刃 そう、骨。これそつちに置いて

花嫁 ね、根っこ。こ！

刃 ええ？国旗。

花嫁 キーボード。

刃 ど。「と」でもいいよね。統計。

花嫁 息づかい。

刃 意地悪。

花嫁 る、ルート……

刃 また「と」？と……

花嫁 ねえ。

刃 何？

花嫁 私、久しぶりに笑ったわ。

刃 僕もだ。

花嫁 ねえ。

刃 何？

花嫁 私、正直なの。

刃 僕もだ。

花嫁 ねえ。

刃 何？

花嫁 私、誰にも触れられた事がないの。

刃 ……僕もだ。

花嫁 ねえ……

刃 触れていい

花嫁 どうぞ。

刃、花嫁に触れるが、

刃 どう？

花嫁 …分らない。

刃 僕もだ。

花嫁 本当はちつとも満腹じゃないの。

刃 本当はちつとも安全になってないしね。でも今は仕方が無いよ。骨がないんだから。

花嫁 そうか、骨か。私の骨は17で止まったまんま。

ルートばかり伸びちやつた。

刃 ルートって、あの？

花嫁 私のルートよ。ひとよひとよによってゴロ合わせするやつじゃないよ。

刃 ひとよ？何それ？

花嫁 知らないの？ルート2のゴロ合わせじゃない。

刃 古いよ。今はいよいよにいきんごむつけなってるの。花嫁さん、本当はいくつ？

花嫁 むかつく、うるさいなあ。…ねえ。

刃 何？

花嫁 私、戻るわ

刃 え？

這いずりまわる源と戻ってきた時野。

源 根が先か、人が先か…根が先なら。

時野 はあ、はあ：源先生、やっぱり無事でしたか？ど  
うやら怪我人なんていないみたいで：

源 しっ！

時野 でも良かった。これならきつと日世子も心配ない

源 わかりませんよ。人の根とは奥が深い：

時野 は？

源 時野くん、今から君が一番弟子だ。メモをとれ！

時野 はい？

源 剣守、神田、鈴鹿め。勝手に帰ったら減点なのに。

僕はやる気てんこもりなんだぞ。ついて来い。

時野 でも、俺、学生じゃないんだけど：

源 一度三途の川を渡った僕は強いぞ。

時野 ちよつと、聞いてます？

根の声と源の声が重なる。その度に時野達は日世子の部屋に近づいて行く。

花嫁・源 骨のある所まで、あの四角い所。

刃・源 待てよ。戻った所で何もできないだろ？

時野 何かやっぱり俺って損してるよな。

源 分かってる。だから私を選んでもらうの。

時野 せっかく戻って来たのに：

源 ちゃんとメモれ。手を伸ばして握手するの。



刃 握手？

時野 こんなところで何やってるんだろ？また中途半端かあ？

花嫁 17で止まった骨の欠片。

時野 日世子に会わなきゃ、ひとつくらいやってのけなきゃ。

花嫁 私が18になるの。

時野 日世子に会って、会って、あれ？会ってそれから俺どうしよう：

源 時野！よそ見るな！だあ、お前のせいで聞きのがしたらどうする。邪魔なあいつももう来ない。

刃 あいつって？

花嫁・源 時野!?

時野 えっ？

花嫁 私のルートを辿って、ルートの果てまで行くの。

刃 花嫁のルート？

源 時野!?

花嫁 だいたい探し物は足元にあるのが相場じゃない？動脈と静脈が通り道。やっぱり初めからこうすれば良かったのよ。

刃 わかってたなら何でそうしなかったの？

花嫁 それが結構難しいの

刃 難しいって、ルートの果てには何がある？

花嫁　　びくともしない根っこがある。

刃　　その根っこの名前は？

花嫁・源　　日の当たらない世界の子。

時野　　日世子…？

時野と源はその名前をしつかりと確認した。

花嫁　　私、行くわ。楽しかった。

刃　　うん、楽しかった。

花嫁　　さよなら。

刃　　さよなら。

花嫁と刃は違う方向へ体を向けた。

源　　また右と左か？

刃が振りかえった。

刃　　目印は国旗。一目見て分かるように作るから。

花嫁　　国旗を目指せばまた会える？

刃　　きつと。今夜にでも作るよ。本物の骨で

花嫁　　じゃあ、少しだけさよなら。

刃　　少しだけさよなら。

今度こそ別々に歩き出す花嫁と刃。

時野　　ちよっと待ってください。日世子って言いましたよね？右ですか、左ですか？追って下さい。

源　　でも、もう片方が：

時野　　そんなこと俺には関係ないよ。俺に関係があるのは日世子のほう：

日世子を指して軽やかに歩く花嫁。  
電車の音、踏み切りの音、花嫁を追う二人。

花嫁　　ひとよひとよに根っこまで、ひとよひとよに辿り着く：

見覚えのある風景、それは日世子の部屋の前。

源　　途切れた：いや、終点かな？

時野　　これ：

源　　やっぱりあの噂のお知り合い？

時野　　そうだ、ベージュ色の壁。

源　　家か？これは：瓦礫みただけ。

時野　　丸ごと持ってきたのか？

源 僕もその噂聞いた事があるよ。近所のおばちゃんの情報源は捨てたもんじゃないね。

時野 じゃあ、日世子は：

源 よし、これでその日世子ちゃんとやらが根が動いた通りの行動をすれば根学を立証できる、つまりシミエレーションは予告になるということだ。

時野 何言ってるんですか、日世子がああ根の通りになる根拠なんてどこにもないでしょ？

源 そう、だから想定と実際を照らし合わせないと。

時野 そんなこと言って実際になつたらどうする：根学の進歩の為です。

時野 ：だからか？そうならない為にドアを閉めたのか？おーい、日世子！

源 気をつけて、時野くん。根だったから良かったものの、楽しいーとかいいながらバツサバツサやってくれちゃって。あ、そうだ念のため警察にも電話しておかなきゃ。おお、その前に記者会見か？「根学、現代に甦る」なんちゃって。時野くん、どこに行くんですか？

時野 扉を開けます。

源 警察が来るまで待ったほうが賢いですね。

時野 どうせ事が起きなきゃ動きませんよ、警察は。

源 事って、何する気？

時野　　日世子に会ってみなきや分らない。いつこくから  
いやつてやるよ。

時野、日世子の部屋の扉を壊し始めた。

時野の根　　イイヒトノフリハツカレマスカ？

時野　　何か言った？

源　　いいえ。ちよつとあんまり刺激するようなこと止  
めなさいよ。

時野　　これは俺の根か？それともセミナーの後遺症か

時野の根　　シンパイスルフリ、ヤサシイフリ、オコルフ  
リ

時野　　もうどれがフリかわかんね。どれも本当だよ。セ  
ミナーに行った俺も、日世子に会いたい俺も。

時野の根　　ジブンヨリモットサミシイヒトガイル

時野　　俺が一番卑しいって言いたいんだろ？

時野の根　　イイナ、イイナ　　ウラヤマシイナ　　コウ

コウノコロハコンナコト：

時野　　うるせえよ。しょうがないだろ、思っちまうんだ  
から。それでも、あいつら　　は：

時野の根　　ヒヨコノコトヲカンガエルトゲンキニナル  
ヒヨコヨリオレノハウガマ　　ダ

時野　　じゃあ、何で俺は今こんなことしてるんだよ？あ

の一瞬に顔が浮かんだ、それを忘れたくないだけだ。これもフリか？それでもエモノっていうのか？

日世子は顔を上げた。

日世子 開けないで。

時野 日世子：

日世子 ：

時野 何年ぶり？今まで何言っただって黙ってたのに。そうだよ、俺やっぱりその声が：

日世子 私ね、笑ってたの。

時野 え？

日世子 「事件が起きました」って聞きたびに。町で見かけた交通事故は快感とさえ言っても良かった。

事件が停滞するとつまらなかった。

時野 日世子？

日世子 他の人はみんな違うみたい。だから私ががんばって見たんだけどね：

花嫁 少しずつ、少しずつルートを昇っていくと。

日世子 少しずつ、少しずつ内臓が吐き出されていくみたい

花嫁 決めるのは私じゃないわ。私には選ぶ事なんてで

きないから。選ばれるのを 待つだけ。

日世子　だから今までずっと選ばなかったじゃない。なの  
のに……。

花嫁　もう限界なんでしょ？

日世子　二千日以上之夜だっここで過ごしてきたん  
だから。それがたった……。

花嫁　たった一夜で充分じゃない。本当はずっと考えて  
たくせに。誰かの声、体温、　足音……

花嫁・日世子　甘い匂い、どろっと流れる赤、トクント  
クンが聞こえなくなる瞬間。

時野　日世子、何かあった？だからそんなふう……

日世子　誰かのせいにしたかったんだけど、でもこれが  
私……ドアを閉めたくらいじゃ駄目みたい。だから今度  
は……

時野　今度は？

花嫁　今度こそ選んでもらうの。

日世子　動脈と静脈を通ってやってくるのは、私。

花嫁　ひとよひとよに根っこまで、

日世子　怯えるようなものじゃなくて、これが私……

花嫁　ひとよひとよにたどりつく。

日世子　だから切るの。

時野　え？

日世子　私の骨を裁ち切れば、私のルートを裁ち切れば  
いい。声も言葉も奪って、二度とこんな事を考えない

ように。

日世子が手に持ったナイフを首に当てたのと同時に時野はドアを蹴り破った。

その時間は静かに、そしてとてもゆっくりと流れた。

そして、また同時に全く違う場所で忍は扉を開けた。

忍 大丈夫、シミュレーションは十分だ

刃 そろそろ動き出すつもり？ 幸い僕には邪魔する奴は。一人もいないからね。

忍 統計を取ってるだけじゃ駄目なんだ。ちつとも安全にならない。イカレタ奴等 ばっかりだ。

刃 だったら握手をしようよ。

忍 怖がってばっかりじゃ駄目なんだ。僕がやらなきゃ。誰も僕を責めないよ。

刃 17の骨の欠片なんてたいしたことじゃない。問題は次の数字だ。

花嫁 ひとよひとよに辿り着く：

忍 誰だって安全のほうが良いに決まってる。

刃 18を手に入れようなんて思うなよ。ひきかえにだ。

いつだって大儀を行うには 犠牲が伴う。



忍 この国のすみからすみまで情報を知り尽くしてる僕だからできるんだ。

刃 ルートを裁ち切った瞬間に18も19も20も無くなるんだ。

忍 そうだ、どうして隠れる必要がある？

刃 それくらい覚悟を持つとけ。

忍 これは正義だ。

忍、しっかりと刃と握手をして悠々と地上へのり出した。

日世子が持っていたナイフは日世子の首ではなく地面に突き刺さっている。

時野がそうしたのでろう。

時野 日世子、お前：

時野はナイフから手を放そうとした。

日世子 離さないで。

時野 え？

日世子 地面から抜いたら今度は時野に突き刺さるんだから。

時野 何言ってるんだよ？

日世子　　本当よ。試してみる？

時野　　一回でも日世子は誰かの息の根に噛みついた事があるの？

日世子　　まだよ。だから早くどこかに行つて。もう来ないで。

時野　　さつき離すなつて言ったのに。

日世子　　時野が邪魔するからややこしくなったじゃない。せつかく：

時野　　じゃあ、抜かない。ずっとこうしてる。

日世子　　え？

時野　　抜いたら本当に俺を刺す？さつきの続きをするつもりだろ？だから抜かない　　し、どこにも行かない。ずっとだ。

日世子　　そんなこといって気分いい？私の事助けてるつもり？

時野　　：違うよ：

日世子　　でも私は変わらない、この根っこは変わらないの。初めて地面を歩いた時　　から。

時野　　日世子、若いよな。年取つてないんじゃない？

日世子　　何、世間話してるのよ。

時野　　うん、聞いて欲しい話があるんだ。

日世子　　話なんか聞いても無理。私か考えてる事はね、誰かの息の根に噛み付く事だけ。

時野　でも、実際何もしてない。日世子がやったことは  
ドアを閉めた事と、今のこれだけだ。

日世子　これを抜いたらはつきりするわよ。

時野　その前に聞いてほしいんだ。日世子に会ってそれ  
からどうするかなんて考えてなかったんだ。でも、今  
思った。どうしても話しておきたいことがあるんだ。  
それからでも別にいいだろ？

日世子　：スキをみせたら知らないから。

時野　気をつけるよ。俺は選んだんだ。選んで今ここに  
いるんだよ。キャンプ場から抜け出した山の中で、俺  
が出会った花嫁はぐうぐう鳴るお腹を押さえて言っ  
たんだ。私、泣いていたのよ。

時野は花嫁を思い出した。それは少し悲しげな顔  
のあの花嫁。

花嫁　私、泣いていたのよ。満たされていくのに、泣い  
ていた。花嫁になるのはやっぱり怖い。何で私なのっ  
て。でも泣きながらあの子達の骨をかじるよりまし  
かなって。

時野　そんなわけがないのに、不意に口から零れたんだ「お  
前、狐か？」って。それ　から：

花嫁行列の一行たちがポロポロ現れた。

鈴ならし　　花嫁もう限界。もう待てない。

巫女　　行きましようか、明日がもうすぐやってきます。

護衛　　花嫁、婚儀の儀式の合図をするね。

花嫁　　待つて。花嫁代理登場。

残りの犬達　　本当に？

巫女　　では早速清めましょう。

右の門　　護衛。

護衛　　用意出来たよ。

時野　　体を掴まれた瞬間になんだかびびって、声を絞り出した。

右の門　　初めから代理を立てれば良かったね。そしたら今までだつて。

時野　　裏返った声でさ、ちよつと誰か？変な奴等がいるんです。誰か！

犬達　　ダレカツテ？

時野　　……もしかしたらセミナーの人とか探してるかもつて……

犬達　　サガス？

時野　　わけないよ。もう金払ったんだから。50万現金で……でももしかしたらあいつらが、

犬達　　アイツラ？

時野 都合の良い事考えた。そんなセミナー行くなよって言ったあいつらのこと振り切ってきたのに。

花嫁 気になるの？もうあんたは会う気ないんでしょ？

時野 帰ってくる時はお前等より上になってるぞって思ってたよ。俺は俺でそんなこと思ってたんだろ？

花嫁 何で今頃そんなこと言うの？もう遅いよ。

鈴ならし これが婚儀の合図。犬達は時野を花嫁に儀式を始める。

左の門 全てが終わったらこっちへおいで。

右の門 朝日が見えたらこっちへおいで。

鈴ならし ふたつの門が開く合図。

時野 これは幻想だ、そう言い聞かした。

巫女 女最後のお祈りをしましょう。花嫁のために。

巫女は時野の上に衣をかけた。

聞こえつつける祈りの声。最後の祈りをしましょ。花嫁のために。

時野 最後の望みに賭けたんだ。おい、元花嫁！お前等やっぱり狐だろ？俺を化かして楽しんでるだけだろ？

花嫁 残念。はずれ。

鈴ならし これが最後の合図。

時野 最後って言われて体のどこかが感じたんだ、ああもう駄目だなんて。

護衛 花嫁、口を閉じて。

時野 後は言われるがまま口を閉じた。いろんな事がよぎってよぎって通り過ぎて、最後に浮かんだんだ。

犬達 さようなら。ありがとう。

時野 お前に会いたいな。

日世子 ……時野…

花嫁 あ……

時野が目を閉じた時、花嫁の耳に何か聞こえた。  
犬達は牙をむいた。

護衛 初めに首。

右の門 それから腕。

巫女 私は背中。

鈴ならし 私は腕。

左の門 最後に腸。

けれど、噛みち切られたのは花嫁。犬達は食い続ける。

花嫁 （人のような、犬のような声）

時野 何て事するんだ、お前等：お前等化け物だろ！

犬達 何でよう、何でよう？

巫女 代理を立てるって言ったのに。

護衛 任せてって言ったのに。

鈴ならし でも、見て。

犬達 もうすぐ明日が来る。

時野 何言ってるんだよ。死んじまったんじゃないの

か？早く病院に：

左の門 全てが終わったら、こっちへおいで。

左の門、花嫁の体から骨を取り出して犬達に渡す。

左の門 ありがとう。花嫁を忘れない為にひとつひとつ

灯していこう。

護衛 始まりの合図。

犬達骨を口に歩き出す。

時野 ちょっと、待てよ。ほったらかしにして何処に行

くんだ？

右の門 また始まった。私が守る次の花嫁は？

巫女 私よ。右の門、いつ頃になる？

鈴ならし ぎりぎり限界まで待つに決まってるでしょ。  
う。

右の門 左の門が足りないけど？

鈴ならし また、どこかで誰かに出逢うと思う。

左の門 行列の最後にいつも思うこれは、何なんだろう？

う？ 満たされていくのに、これは何なんだろう？

犬達 何なんだろうね。何なんだろう、何ナンダロウ、  
ナンナンダロウ……

達の啞えた骨は、ひとつ、またひとつ炎が灯って  
いく。

時野 警察に言わなきゃ、ちよつと、あんた大丈夫か？

花嫁 うきゅ……

時野 救急車呼ぶから、バス停まで俺走るから。俺のこ  
と助けてくれたんだよな？

花嫁 ……

時野 え？こんな時に何わけの分からない事言ってる  
んだよ？おい！…おい、あんた！花嫁！！…はな…

時野、もう一度花嫁を見つめた。



時野 狐？違う、こいつは：

小さく、犬の遠吠えが聞こえた。  
一番初めに聞いた、人の声より高いのか、低いのか分からないあの声。

時野 あの光：あれが狐火？お前の骨が燃えてるんだ

ろ、犬火って名前変えたほうがいいんじゃないか？これは幻想？やっぱり化かされただけか？こいつだつて、あの光も：あの光？あれは：

狐火だった灯りが、ひとつ、またひとつ人工の光に変わっていく。

時野 だからお前あんなこと言ったのか？

花嫁 「あなたのためじゃないよ」

時野、光の方をしっかりと見た。

時野 あれは、俺を探す懐中電灯の光：

懐中電灯の光が眩しい朝の光に変わっていく。  
そのほんの短い間。

朝とも夜とも言えないどちらでもない空の下。  
忍は外界のざらっとした空気を感ずる、けれど晴  
れ晴れとした顔をして。

忍　　もう少し何時間か後にはみんな気づくだろう。そ  
れで好き勝手言うんだ。第一発見者が言いますには：

違う場所でそれぞれ地面に農薬をまく学生達が気  
づいた。

神田　　そっちはどう？

鈴鹿　　やってるわよ。まいて、もっともっとまくの。根  
が死んじゃうくらいまかないとね。

神田　　でもコンビニで売ってた植物用のでも本当に効く  
の？

鈴鹿　　根っこにはかわりないんだから大丈夫よ。

神田　　学校に行つて農学部の子にでも相談する？

劍守　　ねえ：

神田・鈴鹿　　何？

劍守　　変なもん見つけちゃった。

鈴鹿　　何？根っこ？

劍守　　わかんない。何か書いてあるみたい？文字？

忍　　誰かが言った。それはルートを示す文字

違う場所で源が気づいた。

源　へつぶしつつ、ふあゝ、寝ちゃったよ、おい時

野くん、あれ？時野？どこ行っちゃったのさ？おいて  
けぼりするなんて意地悪だね：何だありや？誰か夜  
中にパズル遊びでもしてたのか？

忍　誰かが言った。それはルートを表わすパズル。

神田　あ！私も変なもん見つけた。

剣守　私と同じかな？

神田　でも、地図みたいに見えるけど？

忍　誰かが言った。それはルートを探す地図。

鈴鹿　ねえ、私が見てるのは扉みたいなんだけど：

忍　誰かが言った。それはルートへ続く扉

源　いや、違うぞ。これは：

学生　違う、待って。これは：

忍　誰かが言った。それはルートを断ち切った印。

僕が正義の名のもとに征服した印。

あのだちらとも言えない空の色を破って朝が町に  
色をつけた。

そうして町は動き出す。

工事現場、そこに働く人々。

日世子　　時野の体温が私の手から離れていった。

時野、ゆっくり手を放していく。

日世子　　もう少し何時間か後には私はどうしているかしら？

日世子、床からゆっくりとナイフを抜き始めた。

日世子　　時野はどうしているかしら？

日世子、時野をしっかりと見た。

地面にはうずくまる花嫁。

それは日世子の根なのか、山の中で出会った花嫁なのか、ただの野犬なのか。

日世子　　うずくまっていたものに目を留めてしまったの。行き交う人々は、道端で息たえた野良犬から目をそむけて；でも私は見つめつづけるの。これが私。これは私；？

工事現場の人々は仕事の手を止めた。

何かを見つけたのだ。

源 何だ、これ？イタズラか？

剣守 どうします？

源 こんなあったら仕事にならねえよ。誰だ？  
こ  
んなの作ったのは。引き上げる。

学生 はい。

源 さっさと片付けて仕事仕事。

神田 こっちOKです。

鈴鹿 こっちも。

源 よーし、いくぞ。オーライ、オーライ、オーライ  
…もっと上げて、もっともっと…

どンドン空へ昇っていく「それ」はまるで誰かの  
顔のように見えた。

源 なあ、おい。あれって何かに見えないか？

「それ」は人々によって国旗のように掲げられ  
た。

日世子は手にナイフを持ったまま、時野とまだ見  
つめ合い続ける。

二人ともピクリとも動かず花嫁は丸く丸くうずく  
まったまま。

やっと、時野が言葉を口にした。

時野　　：触れていい？

日世子　何？

時野　　：触れていい？

日世子はまだ時野を見つめ続ける。

そして

ナイフを握り締めていた右手をゆっくりゆっくり  
下げていった。

それを見届けたように

うずくまっていた花嫁、高く高く遠吠えを上げた。  
それからまた小さく小さくうずくまって

花嫁は眠った、ように見える。今は：

おわり